

# Watsonian Sidecarとコロフィー

現在、日本総代理店を務める有限会社コロフィーは、1994年から現在に至るまで19年に渡りワトソニアンサイドカーと歩みを共にしています。それまでの日本の代理店が数年で替わっていた事を考えるとずいぶん長い付き合いです。

まず自分がサイドカーとどのように接してきたかお話ししましょう。

私は、オートバイは10歳で所有。サイドカーは16歳から乗っていました。勿論自作サイドカーです。雑誌の記事を参考に作った物でした。18歳の時W1S-650にサイドカーを鉄工所に依頼してもらいました。色々なサイドカーを見る中で「これなら自作できる!」と決心しそれから5台ほど作りました。しかし現在ほど情報量がありませんので試行錯誤の連続でした。27歳の時作った最後の自作サイドカーのボディーはFRP、連動ブレーキフロントフォークはアールズで15インチ仕様であった。サブ燃料タンクも作りました。1987年、32歳でワトソニアン・モンツァを神戸にあったUK池田から購入。26歳から乗っていたBMW R75/5にセッティングし個人で改造申請をし側車付き車検を取ることが出来ました。その当時大手タイヤ系列メーカーの自動車部品部門の品質保証の仕事をしており、材料試験やJIS等による判断は日常的に行っておりまして。また自動車メーカーに打ち合わせに行く事もよくありました。その経験が自分のサイドカーライフに大きな自信となっております。2級自動車整備士の資格は学生の時取得しました。



左 16歳 自作鉄板カー  
サスペンションつきです  
左中 18歳 鉄工所で作って  
もらったカー  
右中 手前2台目自作カー 奥3台目  
自作カー 初めてのFRP製  
右 右側黄色サイドカー4台目  
赤色が5台目



27歳 6台目のカーはGL500用に設計製作。ボディーはFRP製フロントスクリーン・トランクは開閉式、カー側ブレーキは後輪と連動にした。補助燃料タンクも作り電磁ポンプで送るシステムでした。フロントサスペンションはアールズフォークに初めて挑戦。アライメントについて多くのデータを得ることができました。



左中 改造申請が許可され車検場での検査

32歳 念願のワトソニアンサイドカーを購入。改造申請を提出する為 全バラし部品図を描いた。この当時ネジは全てBSW規格でした。この当時ハンドルを変えても違法と言われる時代でしたからサイドカーを取り付け登録する事は大変な事でした。許可があり車検場に持ち込み「側車付きオートバイ」の車検証が出てきた時は感激でした。この時からワトソニアンサイドカーと私の運命と一緒に回転し始めました。

モンツァに乗り始め そのすばらしさに感動しワトソニアン社に何回か日本のサイドカーミーティング等のレポートを手紙で送っていました。

そして93年の冬に念願叶ってワトソニアン社を訪問する事ができ至福の時を過ごす事ができました。それが縁でワトソニアン社の日本総代理店になる事になりました。



左 93年初めて訪問した時 左側は前社長ピーター 余りにも嬉しくて少々長居してしまった  
中 アーカイブス キャビネットの中には 100年の歴史が入っている  
右 95年クレムリンから発注があった パレード用サイドカー

先代社長のピーター リバース フレッチャー氏夫妻がブリティッシュモーターショー視察で1998年に来日した際、横浜の和食処で一緒に食事を食べながらコロフィーが代理店に選ばれた理由を尋ねたところ「非常に正直だった」事が決め手となったと話してくれた。



中央2人がフレッチャー夫妻  
その隣がTRI-TEC社 社長夫妻  
外側が私共です

1994年の代理店になった当初、輸入国のトップは、ドイツであり、日本は、5番目くらいとの事であった。それから14年後の2007年、ワトソニアン社のHPにて日本は、現在、最大の輸出市場であると紹介されました。サイドカーが好きとはいえ、コツコツと長い間積み重ねてきた努力が報われた瞬間でした。そしてその努力を支えてくださったのが日本のワトソニアンファンの皆様なのです。この場をお借りして御礼申し上げます。今年、2012年、ワトソニアン社は、100周年を迎えます。本国にて8月に行われる記念イベントに私共も参加し多くのワトソニアンを築いた方々やワトソニアンファンの皆様とこの喜びを共にしたいと思っております。